

COVID-19陽性患者の CT撮影時の感染対策例の紹介

各施設にて感染対策部門と相談しながら、
実効的かつ最適な方法を取りきめてください。
あくまでも対策の一例としてご参考にしてください。

【標準的な感染防護具】

患者：サージカルマスク

医療従事者：サージカルマスク，手袋，感染対策用エプロン
フェイスシールドまたはゴーグル

- * 介助で患者と接触がある場合はガウン着用
- * エアロゾルが発生する処置（気道吸引，気管内挿管）は
空気感染予防策が必要
（N95マスク，手袋，ガウン，フェイスシールドまたはゴーグル）

N95マスク使用が想定される場合にはあらかじめ在庫確認，フィットチェックをしておくこと

①防護手順

1. 手指消毒



- ①消毒剤を十分量とる
(乾くのに20-30秒かかる程度の量)
- ②手指全体にぬりひろげる

①防護手順

2. 長袖ガウン着用



①防護手順

3. サージカルマスク着用+アイシールド



①防護手順

4. 手袋の着用



①防護手順

5. CT寝台にディスポシートを敷く



①防護手順

6. 患者呼び込み

患者にサージカルマスクを着用してもらう

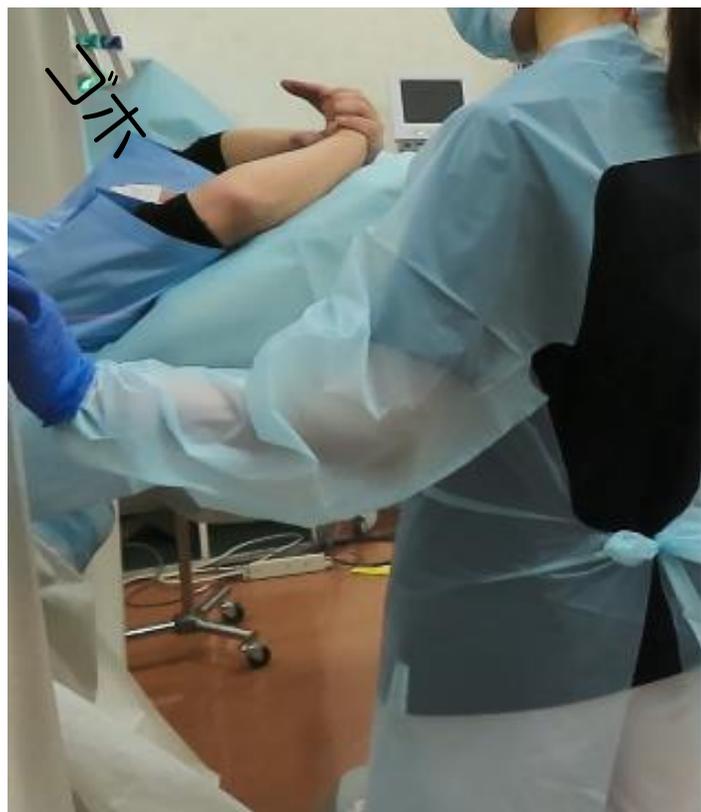
※必ずしも検査着に着替える必要はない

ゴホ
ゴホ



②ポジショニング後

1. 手袋を外す



感染性廃棄物用容器に廃棄



操作室に移動する前にCT室内で脱衣を行う

②ポジショニング後

2. 再び手指消毒

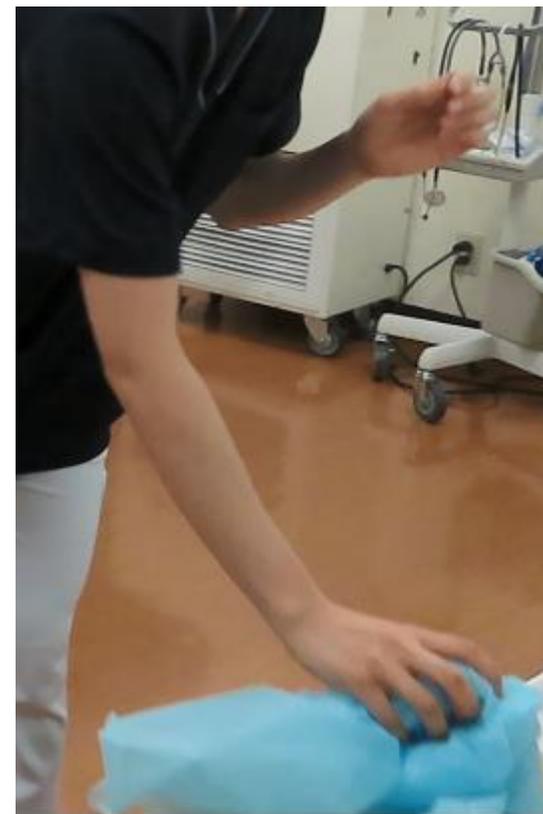


操作室に移動する前にCT室内で

②ポジショニング後

3. 長袖ガウンの脱衣

感染性廃棄物用容器に廃棄



ガウン前面は全体が汚染されていると認識して扱う

②ポジショニング後

4. 再び手指消毒



操作室に移動する前にCT室内で

②ポジショニング後

5. サージカルマスクを外す



感染性廃棄物用容器に廃棄

操作室に移動する前にCT室内で

②ポジショニング後

6. 再び手指消毒



操作室に移動する前にCT室内で

②ポジショニング後



患者を搬送してきた看護師，医師はCT操作室には入らず，廊下で待ってもらおう

患者を搬送してきた看護師，医師がCT操作室に入る際には同様にCT室内で脱衣を行ってもらおう

③撮像終了後（患者を寝台から降ろす際）

1. 手指消毒

スキャン 終了！



操作室で防護具の着用を行う

③撮像終了後（患者を寝台から降ろす際）

2. 長袖ガウン着用



操作室で防護具の着用を行う

③撮像終了後（患者を寝台から降ろす際）

3. サージカルマスク着用+アイシールド



操作室で防護具の着用を行う

③撮像終了後（患者を寝台から降ろす際）

4. 手指消毒後，手袋の着用



操作室で防護具の着用を行う

④撮像終了後（患者が退出した後）

1. ガウン, 手袋を外す

感染性廃棄物用容器に廃棄

患者, 退室



CT室内で脱衣を行う

④撮像終了後（患者が退出した後）

2. 手指消毒後，感染対策用エプロン，手袋を着用



操作室で防護具の着用を行う

④撮像終了後（患者が退出した後）

3. 清拭消毒



④撮像終了後（患者が退出した後）

3. 清拭消毒



装置の清拭はアルコール
或いは抗ウイルス作用有
クロス等で

④撮像終了後（患者が退出した後）

3. 清拭消毒



操作室側，患者入退室ドアのいずれも消毒を

CT装置側の操作パネル等も忘れずに

④撮像終了後(患者が退出した後)

3. 清拭消毒

患者周囲の高頻度接触部位, 物品などはアルコールあるいは0.05%の次亜塩素酸ナトリウムによる清拭消毒の励行が望ましい。

新型コロナウイルス感染症に対する感染管理から
国立感染症研究所・国立国際医療研究センター 国際感染症センター

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/2019nCoV-01-200305.pdf> (2020年3月5日)

④撮像終了後(患者が退出した後)

3. 清拭消毒

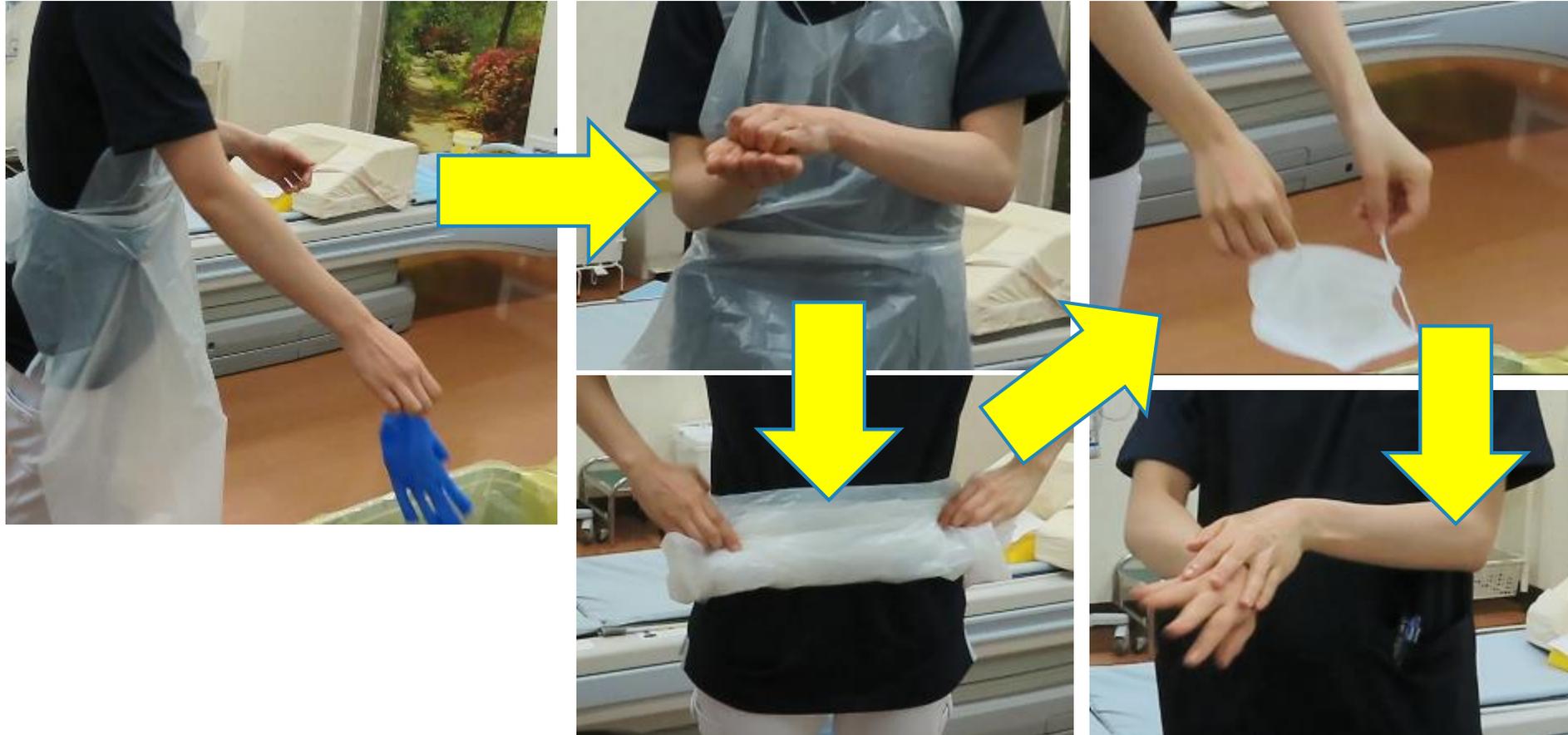
本疾患は、飛沫接触感染する感染症であり、特に環境汚染による接触感染には十分な注意が必要である。

上記の理由により、再使用にあたり換気は必要ありません。

室内の高頻度接触部位, 患者が触れた環境を清拭すれば次の使用が可能

④撮像終了後（患者が退出した後）

4. 清拭時使用クロスや手袋などは感染性廃棄物用容器に廃棄



That's it!



- ▶ Produced by the volunteers of JCR



- ▶ Supervision: Naohisa Fujita MD PHD, Kyoto Prefectural University of Medicine



作成 日本放射線科専門医会・医会
協力 京都府立医科大学附属病院技師室
監修 京都府立医科大学附属病院感染症科 藤田直久